

## < 巻 頭 言 >



### ダム事業の展望

森 北 佳 昭\*

皆様には、日頃から水管理・国土保全局の所管行政の推進に当たりましてご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、昨年は、各地で1時間雨量100mmを超える大雨に見舞われました。また、台風26号の豪雨に伴う伊豆大島での土砂災害、関東平野で発生した竜巻等全国各地で様々な災害が発生しました。これらは地球温暖化に伴う気候変動の影響が考えられますが、大雨の頻度増加、台風の激化等により水害、土砂災害、高潮災害等が頻発・激甚化するとともに、降雨の変動幅が大きくなることに伴う渇水の頻発や深刻化が懸念されています。

治水対策を実施していく上で、河道の流下能力を改善する河道掘削や堤防嵩上げ等とともに、洪水時のピーク流量の低減を図ることのできるダム建設は有効な方策の一つです。昨年の台風18号で京都嵐山の渡月橋の状況が大きく報道されたのは記憶に新しいところですが、桂川上流の水資源機構の管理ダムである日吉ダムでは、平成10年の管理開始以降最大の流入量を記録しました。日吉ダムの洪水調節により、ダムに流入する水量に対してダムから下流へ流す水量を最大で約9割低減しました。京都市嵐山地区（渡月橋付近）では、日吉ダムの洪水調節の効果により、渡月橋の損傷の拡大を防止するとともに、浸水戸数をほぼ半減できたと推定されます。また、下流の京都市の鴨川合流点付近においては、水位が堤防天端まで上昇し右岸側で越水が生じましたが、日吉ダムの洪水調節と土のう積みにより堤防の決壊を免れました。仮に日吉ダムが無く、久我橋下流の右岸側で堤防が決壊した場合、約13,000戸の浸水、約1.2兆円の被害が発生したと推定されます。こうした例からもわかるとおり、ダムは、ダム上流からの洪水を貯留することにより、下流河川の水位を低下させ、流域の水害を防止・軽減する効果を発揮しています。

一方、ダムは渇水に対しても大きな役割を果たします。昨年度は、関東や中部、四国等日本各地で渇水となり、国管理河川では14水系18河川において取水制限が実施されました。例えば、四国の早明浦ダムでは、ダム上流域における降雨が極端に少なく、特に7月は平年の30%程度でしたが、降雨量や河川の流況、取水量の予測等を踏まえダム運用をきめ細かく実施すること等により、渇水時においても一定の水を確保できたと考えています。

このようにダムは水害から国民の生命と財産を守るとともに、国民生活や経済

---

\* 国土交通省 水管理・国土保全局長

活動に不可欠な水を供給する重要なインフラです。平成25年度は、胆沢ダムや金武ダム（旧億首ダム）が竣工した他、大分川ダムが本体工事に着手するなど着実に事業が進捗しました。

平成26年度予算においても、ダム事業については、抜本的な治水安全度の向上等を図るため、整備効果の早期発現に向け重点的に実施することとしています。ハツ場ダムについては平成31年度までの完成に向け本体工事の予算を計上した他、サンルダムや平取ダムにおいても同様に本体工事の予算を計上しました。補助ダムにおいても、伊良原ダム等において本体工事に着手することとしています。

ダムは様々な形でその役割を果たしていますが、近年、ダムサイトの適地が減少していることなどから、既設ダムをより一層活用することが求められています。国土交通省では、ダムの容量の拡大、放流能力の拡大、運用の変更、堆砂対策や水質対策など既設ダムの有効活用を図る取組としてダム再生を推進しており、平成26年度予算においても、我が国の先進技術であるダム再生を推進することにより、コスト、工期、環境負荷を抑制しつつ、治水・利水機能の向上を図ることとしております。

このような取組は我が国のダムのみならず、海外のダムへの適用も期待されており、積極的にその紹介を行っています。例えば、昨年8月に、米国シアトルで開催された国際大ダム会議において、パネル展示等を行いました。今後も、平成27年度にノルウェーで開催予定の国際大ダム会議大会での議題として、日本が提案した既設ダムの有効活用に関するテーマが決定されました。このように国際的にも関心を集めていることから、海外のダムへの展開についても検討していきたいと考えています。

東日本大震災以降、ダムが持つ純国産エネルギーである水力エネルギーへの関心が高まっています。国土交通省では、小水力発電の導入を促進するため、水利使用手続の簡素化・円滑化を進めており、昨年の河川法の改正により、既に許可を受けた水利使用のために取水した流水とダム等から放流される維持流量等を利用した小水力発電の水利権について、従来の許可制から登録制にしました。また、全国の直轄管理ダム等において、導入可能性に関する「総点検」の結果に基づき、ダム管理用小水力発電設備を積極的に導入することで、未利用水力エネルギーの有効活用を推進しています。また、既設ダムの治水機能を強化することと併せて、水力エネルギーを増強するための諸施策について検討中であり、今後とも水力エネルギーの有効活用を図っていきたいと考えています。

今後とも、ダム事業に関する様々な取組等を進めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



胆沢ダム【北上川水系・平成26年3月完成】



金武ダム【億首川水系・平成26年3月完成】